

か かん けん 河環研だより



コイ

- 1 天然記念物イタセンパラ 生息域外保全の取り組み
- 2 マラカイトグリーンの使用禁止について
- 3 カジカの検卵作業
- 4 「研究成果検討会」を開催しました

1 天然記念物イタセンパラ 生息域外保全の取り組み

イタセンパラは、漢字では「板鮮腹」（板のように平たい体形で、色鮮やかな腹部をもつ魚の意）と書き、字の如く大変美しいタナゴの仲間です。木曾川はイタセンパラ個体群が確認されている全国でも数少ない場所のひとつですが、近年、十分な生息個体数が確認されておらず絶滅が危惧されています。

当研究所では、環境省など関係機関と連携しイタセンパラを人為的環境下で繁殖させ、木曾川での存続が困難となった場合に備えて、必要に応じて野生復帰できる体制を整える“生息域外保全”の取り組みを始めています。

イタセンパラは、秋期に生きている淡水二枚貝の体の中に卵を産み付け、翌年の春期に稚魚が貝から泳出するまで約7カ月間も貝の中で過ごす特異な繁殖生態をもっています。このことが、他のタナゴ類と異なり、人為的環境下での繁殖を困難にさせている最大の課題です。つまり、イタセンパラを繁殖させるには、産卵母貝となる二枚貝も一緒に育てる飼育技術確立する必要があります。

現在、当研究所ではイタセンパラの繁殖と並行して、産卵母貝としてイタセンパラに好まれるインガイの育成条件について研究を進めています。

(生態環境部 後藤)



産卵中のイタセンパラ



産卵母貝となるインガイ
(イタセンパラは貝の水管から卵を産み付けます)

2 マラカイトグリーンの使用禁止について

マラカイトグリーンの食用魚への投与が全面的に禁止されましたので、お知らせします。

マラカイトグリーンは未承認医薬品であり、平成15年の薬事法及び関係省令の大幅改正により、食用魚への使用が禁止されました。また、平成17年7月31日の猶予期間の終了をもって、マス類の卵の水カビ防除剤としての使用も禁止されました。しかし、これまでは、獣医師の診断を受け、その指示書に基づいて投薬する場合に限り、例外的にマラカイトグリーンを食用魚の治療に使用することが可能でした。

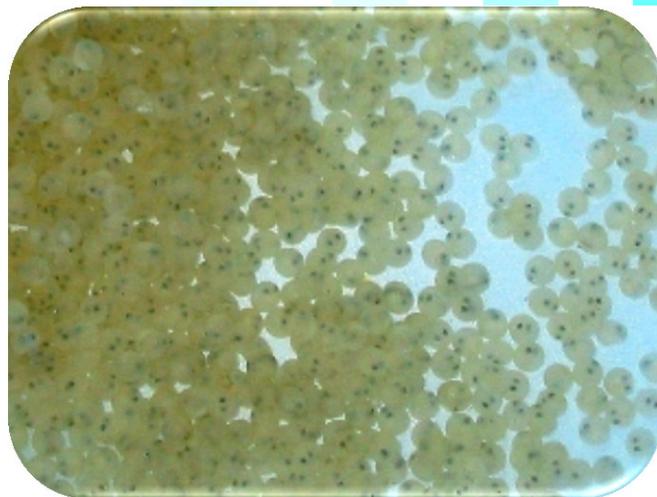
ところが、このたび、水産物の安全を一層確保する観点から、薬事法の改正と関係省令の整備（平成25年11月30日施行）が行われ、マラカイトグリーンの食用魚への投与が、獣医師の診療に基づく適用外使用から除外されました。つまり、今後は例外なく、いかなるケースにおいても、食用魚にマラカイトグリーンを投与することはできなくなりました。

養殖業を営まれる皆様におかれましては、安全・安心な養殖魚の生産のため、水産用医薬品の適正使用にこころがけるとともに、食用魚に対するマラカイトグリーンの使用禁止について徹底されますよう、よろしく願いいたします。

(資源増殖部 武藤)

3 カジカの検卵作業

下呂支所でカジカの検卵作業を実施中です。カジカは、1月から3月にかけてかたまり状の卵を産みます。下呂支所では、産卵用水槽から回収した後に卵管理水槽に收容し、発生が進んだ発眼卵（はつがんらん）の段階で、卵のかたまりをほぐしてふ化用の水槽に移します。この卵のかたまりをほぐすときには、同時に「検卵（けんらん）作業」を必ず実施しています。卵はすべてが正常に発生しているわけではなく、死んだ卵も含まれています。そうした卵には水カビが寄生し、放置しておくとも菌糸が広がって周囲の正常卵を窒息死させてしまい、卵が全滅することも珍しくありません。そのため、死卵をピンセットで1粒ずつ取り除く「検卵作業」が欠かせません。カジカの卵は、直径2mm、重量0.007gと小さいので神経を使いますが、これはカジカ養殖の成否に関わる特に重要な作業といえます。（下呂支所 藤井）



カジカ発眼卵（はつがんらん）と検卵作業

4 「研究成果発表会」を開催しました

平成25年度の「研究成果発表会」を2月18日・20日に美濃市と高山市で開催しました。美濃会場では「天然アユを考慮した効率的な放流技術の開発」や「水田魚道の設置に適した場所や条件」など、成果発表と情報提供合わせて計9課題を、高山会場では「第6次産業によって特産品を作り出す取り組み」や「大型マス類の鮮度に関する研究」など計8課題を発表しました。当日は、美濃会場157名、高山会場127名の方々に出席していただきました。発表後の質疑応答では、出席者の方からご質問やご意見を多数いただき、大変有意義な発表会となりました。誠にありがとうございました。

（担当：生態環境部 後藤、下呂支所 原）



美濃・高山の2会場で行いました



たくさんのご質問ありがとうございました

発行 岐阜県河川環境研究所

本 所 〒501-6021 各務原市川島笠田町官有地無番地 TEL: 0586-89-6351 FAX: 0586-89-6365
 下呂支所 〒509-2592 下呂市萩原町羽根2605-1 TEL: 0576-52-3111 (代) FAX: 0576-52-4354
 ホームページ <http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/> 「河川研」または「kasenken」または「かせんけん」で検索